



図書だより 10月

平成30年10月5日
開南幼稚園 永森 加奈

秋を見つけに出かけよう

暑い夏から一気に秋がやってきました。変化が大きいこの季節、道端のあちこちで秋を感じます。運動会前の園庭は子どもたちの歓声や声援で賑やかです。

“さんまの蒲焼”が出た木曜日、ぞうぐみで配膳前に「秋の魚といえば・・・？」と聞くと「さんま！」と返ってきましたので、「明日の貸出しは“秋の本”を選んで欲しいから、秋らしいものは何があるか考えてきて」と宿題を出しました。おうちで話題になったでしょうか？金曜日、表紙が見える本棚に秋の本をたくさん置き、何を選ぶかワクワクしながら待っていました。すぐに焼き芋！とかお月様！と手に取る子がいた一方目の前にヒントがあるのにもかかわらず、「秋って・・・？」と悩む子のほうが多く、実際に触れることが少ないから、連想することが難しいのかもしれないと感じました。子どもは知識を得る前に、体で感じる事が大切です。ぜひ、子どもと一緒に外に出かけて、身近なところで季節の移り変わりを五感で感じて、興味の素をたくさん発見してください。また、旬の物を食卓に出して一緒に美味しいね！と味わってほしいと思います。そして、季節の連想ゲームをぜひ楽しんでください。この年齢のこの季節というのは、一生に一度きりです。季節に関する子どもとのやりとりを大切にしてほしいと思います。



「柴田愛子さん講演会」

絵本「けんかのきもち」などの著者で、「りんごの木」代表の保育者、柴田愛子さんの講演会に行きました。子どもの心に寄り添うことを基本姿勢として、紆余曲折しながらやってきた30年間の子どもとの関わりのお話しは、柴田さんの人となりがあり時折笑いが起こる、時間を忘れるほどの楽しい充実した2時間でした。納得することがたくさんで、ここだけではとても書ききれないのですが、少し紹介します

～時代によって環境など様々な変化が起きているが、最も大きく変化しているのが“子育て”。平均と比べてしまいがちだが、子どもは“自分の発達のものさし”を持っていて必要性があるときにできるようになるもの。親はやりすぎではないか？心配されて育っていくのと、喜ばれて育っていくのでは、子どもの気持ちは大きく違ってくる。子どもはいろいろな顔を持っていて、それが生きる力となっていく。子どもの表情や態度をよく見ることが大切。そして、子どもは親の表情を敏感に感じ取っている。～ 柴田愛子さんの著書「こどものみかた春夏秋冬」は、図書室にありますのでご利用ください。

10月 貸出し

貸出	10/5 (金)	12 (金)	18 (木)	26 (金)
返却	10 (水)	15 (月)	22 (月)	29 (月)

- * 返却を忘れると、次回貸出しはできません
- * 自分のことは自分ですることが目的です。お子さんが布バックに自分で入れるよう声掛けをお願いします。
- * 破損したときは、テープは貼らず、付箋などでお知らせください
- * 金曜に欠席した時は、月曜に貸出ししますので、水曜までに返却してください



絵本リサイクルバザー

9月12日(水)～14日(金)の自由参観に合わせて行いました。収益金は絵本購入のために利用いたします。絵本のご購入と寄贈をたくさんいただき、ありがとうございました。次回は1月の自由参観に予定しています。ご家庭で読まなくなった絵本の受け入れは随時行っていますので、名前と冊数を書いたメモを添えて、図書室へお持ちください。ご協力お願いいたします。

第16回 リサイクルバザー 収益 3,090円 利用者 17名 ・ 販売冊数 108冊



「おはなししましょ！」

9月21日(金)「私のおすすめ絵本」のテーマで行いました。自己紹介をしながら持参した本を紹介し合って、和やかな時間となりました。

次回は 10/26 (金) 12:40～13:20 テーマ「秋のあれこれ」 どうぞお気軽にご参加ください
--